

統合医療に対する日本医師会の見解

定例記者会見

2010年3月10日
社団法人 日本医師会

ここ数か月、国会において、民主党議員から、統合医療の推進を求める発言が相次いでおり、鳩山首相も前向きに取り組む意向を示している。

2010年1月28日 参議院予算委員会

山根隆治参議院議員(民主党)

「西洋医学と世界各国の伝統医療を融合させて患者本位の医療を行うというのが統合医療の基本理念だと思います(中略)。総理のこの統合医療に懸ける思いというものをお聞かせいただきたい」

鳩山由紀夫内閣総理大臣

「統合医療を是非政府としても真剣に検討してこれを推進をしていきたい」

長妻昭厚生労働大臣

「今後、統合医療の省内でプロジェクトチームをつくりまして、これを一本にまとめていく(中略)。統合医療の研究について10億円以上の予算を計上しまして、その効果も含めた研究というのに取り組んでいきたい」

2010年3月5日 参議院予算委員会

大島九州男参議院議員(民主党)の統合医療の質問に対する答弁

鳩山由紀夫内閣総理大臣

「医療費の大幅な削減にもつながる可能性があり、非常に期待している」

また長妻厚生労働大臣の答弁(前頁参照)を受けて、厚生労働省において、「統合医療プロジェクトチーム」が設置され、2月5日に第1回会合が開催された。

厚生労働省が示す統合医療の定義

(統合医療プロジェクトチーム第1回会合配布資料(資料2-1)より抜粋)

1. 統合医療とは

医療には、近代西洋医学以外に、伝統医学、自然療法、ホメオパシー、ハーブ(薬草)、心身療法、芸術療法、音楽療法、温泉療法など多くのものがあり、これらを相補・代替医療(Complementary and Alternative Medicine; CAM)とよんでいる。

これらの相補・代替医療を近代西洋医学に統合して、患者中心の医療を行うものが統合医療である。



日本医師会の見解

ここで示された定義は、厚生労働省が関連学会等の資料¹⁾から独自にまとめた定義であり、国民に理解されていないことはもちろん、医療関係者にも浸透していない。

特に厚生労働省が、統合医療でなければ「患者中心の医療」でないかのような整理をしている点は非常に問題である。

1) 日本統合医療学会「国家プロジェクトとしての統合医療に関する提言」2010年2月5日、統合医療プロジェクトチーム第1回会合配布資料(資料2-4)

「統合医療プロジェクトチーム」第1回会合資料には、関連学会等からの要望書が添付されており、強い働きかけがあったことがうかがえる。また、WHOでは伝統医学の標準化、中国では国際標準化も進んでいることが示されている。

統合医療プロジェクトチーム第1回会合配布資料(資料2-4)より要約

1. 日本東洋医学サミット会議

2010年1月22日『伝統医療(漢方・鍼灸)を主管とする部署の設置について』を民主党小沢一郎幹事長に提出。「伝統医療政策を主管する部署」(いわば統括本部)を政府行政の中に設置することを要望。

2. 日本統合医療学会

2009年10月13日『国家プロジェクトとしての統合医療に関する提言』とりまとめ。民主党が行うべき政策であるとし、財源の問題を解決できる政策であると主張。

WHOでは国際疾病分類(ICD11)への改訂に際して、東アジア伝統医学分類を取り入れることが検討されている¹⁾。また、中国は国際標準化機構(ISO)に対して、中国伝統医学を国際標準とするように働きかけを強めている²⁾。



日本医師会の見解

日本では、統合医療の定義について、まず医療界で議論することが必要である。統合医療推進ありきで、議論に入るべきではない。

1)「厚生労働科学研究費補助金の成果表(平成20年度)」2009年6月30日、第50回厚生科学審議会科学技術部会配布資料

2)2009年8月8日、日本経済新聞夕刊

一方、3月中に行政刷新会議に規制・制度改革分科会が設置される予定であるが、同分科会は、規制改革会議が2009年12月4日にとりまとめた医療分野の重要取組課題を継承する可能性がある。

規制改革会議「重要取組課題(医療分野)」2009年12月4日

保険外併用療養(いわゆる「混合診療」)の在り方の見直し

医療情報に係る改革(レセプト等の電子情報の利活用の促進と直接審査など保険者機能の強化)

診療看護師資格の新設

医師国家試験受験資格の拡大

公立病院の医師の兼業禁止の在り方の見直し

(独)医薬品医療機器総合機構の改革

再生・細胞医療の臨床環境整備

一般用医薬品の郵便等販売規制の緩和

日本医師会の見解

統合医療と同じ時期に議論されていることから、1. 統合医療が混合診療全面解禁の引き金になりかないこと、2. 診療看護師資格の新設等が統合医療の国家資格拡大につながりかねないこと - が懸念される。

また、鳩山由紀夫首相は、統合医療について「医療費の削減につながる」と認識している¹⁾。また足立信也厚生労働大臣政務官は、鳩山内閣の医療政策のキーワードは「予防医療」であり、そのあらわれが「統合医療の推進」であると述べている。

2010年2月24日 衆議院厚生労働委員会

足立大臣政務官「鳩山内閣あるいは長妻大臣の医療政策のキーワードは、私は一言で言えば予防医療だと思っております。そのあらわれが統合医療の推進であり、あるいは情報の共有と理解の促進ということ、そして予防接種にあるんだと思います」

日本医師会の見解

1. 鳩山首相は、医療費削減を期待しているかのようであるが、医療費増大を約束した民主党マニフェストと相反する。日本医師会は、医療費削減政策への回帰に断固反対である。
2. 足立政務官は、予防医療のあらわれが統合医療の推進であると述べているが、その理由も、根拠もまったく示されていない。医療に関し、軽々にこのような発言をされることは遺憾である。

1)2010年3月8日, メディファクス 5834号

統合医療に関する現時点での日本医師会の見解

1. 統合医療とは何か、日本では共通認識がもたれていない。厚生労働省が行っている調査、研究をもとに地道な議論を積み重ねるべきであり、拙速に「統合医療推進」の検討に進むべきではない。
2. 鳩山首相は、統合医療に「医療費削減」を期待している。しかし、特に2006年以降の医療費抑制で、地域医療は崩壊した。このことを忘れるべきではない。
3. 足立政務官は「予防医療」と「統合医療」を関連づけている。しかし、たとえば、医療費適正化計画の下に始まった特定健診・特定保健指導の検証はこれからであり、その結果を慎重に見極めるべきである。

日本では、エビデンスの下で有効性、安全性が確認された医療は公的保険に採り入れられている。漢方薬もしかりである。

今、あえて科学的根拠が確立していない統合医療が推進される背景には、混合診療を解禁し、市場原理主義に立ち返ろうという狙いがあるのではないかとの疑念を抱かざるを得ない。日本医師会はこのような流れに強く反対する。

統合医療に対する民主党の発言(1/3)

年月日	発言者	内容
2006.3.24	山根隆治 参議院議員	「この統合医療について我が国が欧米に比べてかなりの後れを取っているということにかんがみて、私は来年度以降も思い切った予算措置というものが需要だと思ふんです」 (2006年3月24日 参議院予算委員会)
2008.3.5	鳩山由紀夫 民主党幹事長	「戦後の日本は、西洋医学に偏重しすぎている。漢方医学など、代替医療も、西洋医学と同様に重視されるべきだ。治療を受ける患者の立場に立ち、医療のあり方を見直していきたい」 ¹⁾ (2008年3月5日 「統合医療を普及・促進する議員の会」)
2009.7.27	民主党	漢方、健康補助食品やハーブ療法、食餌療法、あんま・マッサージ・指圧、鍼灸、柔道整復、音楽療法といった相補・代替医療について、予防の観点から、統合医療として科学的根拠を確立します。アジアの東玄関という地理的要件を活かし、日本の特色ある医療を推進するため、専門的な医療従事者の養成を図るとともに、調査・研究の機関の設置を検討します。 (「民主党医療政策 <詳細版>」)
2009.11.21	鈴木寛 文部科学副大臣	「日本の国家戦略として推進していきたい」 ²⁾ (2009年11月21日 第13回日本統合医療学会)

1) 2008年3月6日, NHKニュース

2) 2009年11月28日, 産経新聞朝刊

統合医療に対する民主党の発言(2/3)

年月日	発言者	内容
2010.1.28	山根隆治 参議院議員	「西洋医学と世界各国の伝統医療を融合させて患者本位の医療を行うというのが統合医療の基本理念だと思います(中略)。総理のこの統合医療に懸ける思いというものをお聞かせいただきたい」 (2010年1月28日 参議院予算委員会)
2010.1.28	鳩山由紀夫 内閣総理大臣	「この内閣をリードする者として、統合医療を是非政府としても真剣に検討してこれを推進をしていきたいと、様々な問題点がまだ指摘はされておりますけれども、それを克服して推進をしてまいりたい」 (2010年1月28日 参議院予算委員会、民主党・山根隆治氏に対する答弁)
2010.1.28	長妻昭 厚生労働大臣	「今後、統合医療の省内でプロジェクトチームをつくりまして、これを一本にまとめていくということで検討していくということであります。(中略)厚生労働省といたしましても、この22年度の予算でかなりこれまで以上に、研究分野の統合医療の研究について10億円以上の予算を計上しまして、その効果も含めた研究というのに取り組んでいきたい」 「統合医療について世界の国々あるいは欧米諸国にも利用していただくためには、何よりも科学的な根拠、証拠に基づくそういう研究、検証というのがもう不可欠だというふうに考えておりまして、まずはそこを力を入れてやっていく」 (2010年1月28日 参議院予算委員会、民主党・山根隆治氏に対する答弁)

統合医療に対する民主党の発言(3/3)

年月日	発言者	内容
2010.1.29	鳩山由紀夫 内閣総理大臣	「健康寿命を延ばすとの観点から、統合医療の積極的な推進について検討を進めます。」 (2010年1月29日 衆議院本会議および参議院本会議、施政方針演説にて)
2010.2.5	足立信也 厚生労働大臣政務官	「どういう方にどういう医療が必要なのか、まずエビデンスが必要」 ³⁾ (2010年2月5日 統合医療プロジェクトチーム)
2010.2.17	長妻昭 厚生労働大臣	「統合医療について、現状を科学的に把握し、今後の政策について検討します。」 (2010年2月17日 衆議院厚生労働委員会、所信表明演説にて)
2010.2.24	足立信也 厚生労働大臣政務官	「鳩山内閣あるいは長妻大臣の医療政策のキーワードは、私は一言で言えば予防医療だと思っております。そのあらわれが統合医療の推進」 (2010年2月24日 衆議院厚生労働委員会、民主党・仁木博文氏の子宮頸がんワクチンの質問に対する答弁)
2010.3.5	鳩山由紀夫 内閣総理大臣	「医療費の大幅な削減にも十分つながる可能性があり、非常に期待している」 ⁴⁾ (2010年3月5日 参議院予算委員会、民主党・大島九州男氏の統合医療の質問に対する答弁)

3)2010年2月8日,メディアファクス 5815号

4)2010年3月8日,メディアファクス 5834号